

11月号

2019 No.178

広報能美

広報

# の み

Nomi City News Letter



**祝**

**金メダル**

**おめでとう!!**

**鈴木雄介選手**

**世界陸上2019  
男子50キロ競歩**

写真：フォート・キシモト

主な内容

**特集**

「住み慣れた家で自分らしく」を支える

**訪問介護・看護  
という仕事**

- ・能美市に機能別消防団が発足！
- ・ピティナ・ピアノコンペティション  
宮本さんと東出さんが金賞受賞

# 鈴木雄介選手金メダル獲得



写真：フォート・キシモト

## 獲得

世界陸上競技選手権大会（9月27日～10月7日）はカタール・ドohaで9月28日、2日目の競技が行われ、男子50キロ競歩で松が岡出身の鈴木雄介選手（富士通）が金メダルに輝きました。

酷暑を考慮され、レースは現地時間の午後11時30分にスタートしました。鈴木選手は持ち前のスピードを生かしスタート直後からトップに飛び出します。気温30度、湿度70%超という高温多湿の過酷な環境でしたが、いつものように美しい歩型でレースを進め、序盤から2位以下を引き離し独歩状態に。厳しい環境の影響で次々と途中棄権する選手が出るレース展開となりましたが、鈴木選手は終盤、給水であえて立ち止まっただけの水分補給や緩やかなペースで歩くなど冷静にコンディションを整えま

す。最後は粘り強く前に進み、ガッツポーズでフィニッシュしました。記録は4時間4分20秒で、日本人選手が世界選手権の競歩種目で金メダルを獲得するという史上初の快挙を成し遂げました。

このメダルまでの道のりは決して平坦なものではありませんでした。2015年3月15日、第39回全日本競歩能美大会20キロ競歩で1時間16分36秒の世界新記録を樹立。一躍有名になりました。しかしその後、恥骨を痛め、同年8月の世界選手権では、痛みを耐えながら出場も途中棄権。そこからは鼠経部<sup>そけいぶ</sup>周辺に痛みを伴うグロインペイン症候群との闘いが続き、2年9か月もの間、実戦から遠ざかることを余儀なくされました。それでもハリビリを続け、これまで

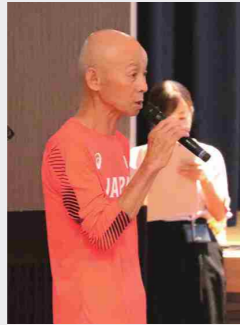
20キロを主戦場としてきていた鈴木選手は今年4月の日本選手権で初めて50キロに本格的に挑戦しました。結果は従来の日本記録を40秒上回る3時間39分7秒で優勝。50キロでは初の世界選手権代表の座を勝ち取り、今大会に臨んでいました。

レース後、鈴木選手は喜びをかみしめるように日の丸の旗を身に着けました。

まとい「自分を信じてくれたすべての人達のおかげで、ここにいる。感謝したい」と目頭を熱くしていました。また、帰国後には、これからも感動や勇気を与えられるレースをしていきたいと語りました。自身の夢、日本競歩界の夢のために鈴木選手は力強く歩み続けます。今後も、市民一丸となって応援していきましょう。

### 歓喜！地元の応援団も沸いた！

辰口福祉会館ではパブリックビューイングが開催され、松が岡の町民や恩師の内田隆幸コーチ（福岡町）をはじめ、陸上部員の学生、陸上競技協会関係者など約200人が集結し、声援を送りました。鈴木選手がスクリーンに映るたびに館内は歓声で沸き、ゴールの瞬間はくす玉が割られ、割れんばかりの大歓声が起こりました。



▲エールを送る内田コーチ



▲スティックパルーンを鳴らして会場を盛り上げる応援団

### 能美市も金メダルを祝福

鈴木選手の世界選手権での活躍を祝い、10月2日、市役所本庁舎に懸垂幕を設置しました。

井出市長は「国民そして市民の皆さんに勇気と感動を与えてくれた鈴木選手への感謝とお祝いの意味を込めて懸垂幕を掲げました。鈴木選手は世界選手権の激励会で“市民の応援が自分の背中を押す”と話していましたので、次のステージに向けて市民一丸となって引き続き応援をしていきたい」と話しました。ジュニア時代に指導した能美市陸上競技協会の山本徹会長（徳久町）は「本当に嬉しい限りです。彼の活躍は能美市の子どもたちにも影響を与えています。今後も、今回以上のことを成し遂げてくれると信じています」と期待を込めました。



▲競歩練習用コース「ブルーミングロード」の起点と終点にも横断幕を設置しました。

▲鈴木選手の活躍を祝う井出市長と松が岡町会長の南盛二さん、能美市陸上競技協会の方々